

包

包は、勹と巳との合字です。勹は、𠂇で人が物をだきかかえている形です。巳はおなかの中の赤ちゃんの象形です。従って、包は“子供が腹の中につつまれている”形で、“つつむ”という意味を表わしています。包装、包容(“包み入れる”ことから“度量”の意味)、包含。

抱は、扌(手)と包とで、“手で包む”つまり“だきかかえる”意味を表わしたものです。抱擁。「抱負」は、抱いたり、背負ったりすることが本流ですが、“心に抱く望み”という意味に使われています。

飽は、“赤ちゃんがおなかの中にいる”意味の包と食との会意形声字です。“食べ物を沢山食べて、おなかがふくらむ”という意味で“あきる”ことを表わしたものです。「飽食暖衣」とは、飽きるほど食べ、着物は暖かいほど沢出身につけることで、ぜいたくな生活をすることを表わしたことばです。

砲は、石を包んで、それをはじきとばす武器のことです。わが国では、これを“石ゆみ”と言いました。その大じかけなものが“大砲”です。今では、火薬の力で鉄の弾丸を打ち出す武器の名前になりました。

鞆は、革(なめし皮)で作った、物を包むための物という意味で、“かばん”のことを表わした日本製の漢字です。

胞は、“赤ちゃんがおなかの中にいる”意味の包に月を加えて、“胎児を包む肉膜”という意味を表わしたものです。人は胞から生まれますので、「同胞」というのは、同じおなかから生まれた。“兄弟”という意味になります。また、生殖の働きを持つものに、この胞を用いることがあります。胞子、細胞。

泡は、“空気を水で包んでいる”という意味で、“あわ”を表現したものです。あわは消えやすいので、降って消えやすい春の雪のことを「泡雪」と言います。

庖は、家の意味を表わす广と包とで、“食物を包みおさめておく^へや^や”という意味を表わしています。“台所”“調理場”のことです。「庖丁」は、調理用の刃物という意味です。

疾は、泡つぶの意味の包と病気の意味の疒との会意形声字です。体じゅうに、水泡のようなはれもののできる病気、“天然痘”のことです。あとで、(きず)瘡が残るので、昔はこれを「疱瘡」と言いました。

袍は、“中に綿を包んである着物”という意味のことばで、俗に言う“綿入れ”のことです。

鈹は、“中に金を包んである大工道具”という意味の字です。かなは、刃が本の台の中にはめこまれているので、鈹という字で“かな”を表わしたものです。